

別紙様式 地方創生に資すると考えられる政府関係機関の地方移転に係る提案

※記入にあたっては、「政府関係機関の地方移転に係る道府県等の提案募集要綱」(別添1)を参照してください。また、適宜、参考資料を添付してください。

① 道府県等の提案団体の名称	富山県
② 関係市町村の名称	射水市
③ 誘致を希望する政府関係機関の名称 ※まとまりのある一部分の組織・機能の移転や地方拠点の設置を希望する場合はそのことが明確に分かるよう記載してください。	独立行政法人医薬品医療機器総合機構(ジェネリック医薬品等審査部及び国際部(アジア医薬品・医療機器薬事トレーニングセンターを含む。))
④ 誘致先の予定地 ※住所、面積、交通アクセス等当該予定地の現況を記載してください。	富山県射水市中太閤山17-1 富山県薬事研究所敷地内 敷地面積35,323平方メートル(既存の建物2,595平方メートルあり)
⑤ 誘致の必要性・効果 ※以下のア、イの内容について必ず記載してください。 ア 地方版総合戦略の重要な要素であること。 当該地方公共団体の総合戦略の重要な要素と、誘致する機関の業務・機能とが密接に関連し、総合戦略の目標達成にとって当該機関の移転が重要な要因となるものであること。また、例えば研究機関の移転であれば、特定分野の産学官の研究集積又は当該分野の関係産業の集積がなされている等、現状において一定の強みを持つものであること。(併せて地方版総合戦略の案の該当部分を参考資料として添付してください。) イ 国の機関としての機能確保 当該機関が現在地から当該道府県に移転することにより、国の機関としての機能が確保でき、運用いかんによってはむしろ向上することが期待できること。(例えば、移転により当該道府県以外の道府県の利便性が悪化し、国全体としての機能が低下しないか、移転により現在機能が集積していることの強み・メリットを損なうことにならないか等の問題点があったとしても、それを上回るだけの移転のメリットがあるか、など。)	<p>ア)地方版総合戦略の重要な要素であること          &lt;富山県における医薬品産業の重要性&gt;          富山県は、江戸時代から始まり300年を超える歴史を有する配置薬業(置き薬)から続く、国内でも有数の医薬品製造拠点であり、「くすりの富山」として全国的に知られてきた。美しく豊かな自然、地震や台風などの自然災害の少ない地理、陸海空にわたり整備された交通網などの強みにより、近年、医薬品の研究開発・製造拠点として益々注目が高まり、日本最大手のジェネリック医薬品専業メーカーを始め、高い製造技術を有する製薬企業や、容器・包装などの周辺産業の企業が県内に集積している。また、平成25年の医薬品生産金額は約6,089億円と過去最高額を記録し、都道府県別で埼玉県・静岡県に次ぐ第3位となっている。人口1人当たりでは約57万円であり、2位の徳島県(約31万円)を引き離して全国1位となっている。県内の産業中分類別出荷額においても医薬品は全金額の約12%を占め、文字どおり富山県の基幹産業の一つとなっている。</p> <p>&lt;富山県の医薬品産業の地方版総合戦略における位置づけとこれまでの取り組み&gt;          富山県は、この医薬品に加えて、その他の化学や金属製品等の工業も集積した日本海側唯一の「ものづくり県」であり、医薬品を含むものづくり産業を発展させていくことを「富山の強みを活かした成長産業の育成」として、富山県版総合戦略「とよまの未来創生戦略(仮称)」における基本目標「雇用の創出、産業の振興、県外からの移住促進」の具体的な施策の一つとして位置づけている。戦略の中では、医薬品について「平成33年の医薬品生産金額7,500億円」という目標を設定し、これらの目標を達成することにより、富山県の地方創生を図り、活力ある「元氣とやま」の実現を図ることを掲げている。医薬品産業の振興のため、これまで富山県では、「製造技術力等の強化と関連事業等との連携」「情報発信と企業立地しやすい環境づくり」「国際化の推進」「人材の確保・育成」などの方向性を掲げ、種々の施策に取り組んできた。例えば、平成27年3月には、県立の施設では全国唯一の薬事専門の研究所である「富山県薬事研究所」に、最新の試験・研究機器を備えた「製剤開発・創薬研究支援ラボ」を開設し、新しい医薬品の研究開発の支援に取り組んでいるところである。</p> <p>&lt;移転により期待できる富山県における効果&gt;          このような富山県の医薬品産業が更に飛躍するためには、県内製薬企業がその高い製造技術を生かし、患者の利便性向上等の工夫を凝らして付加価値を高めた医薬品の開発を促進するとともに、国内のみならず海外の市場にも目を向け、海外新興国等の医薬品需要の増加を取り込み、更なる成長を図ることが必要となっている。          今回移転を要望する独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)の部門のうち、ジェネリック医薬品等審査部においては、多くの県内製薬企業が開発・製造に取り組んでいるジェネリック医薬品に関する相談・審査を担当している。また、PMDAの国際部においては、医薬品に関する国際調和活動への参画・貢献や、諸外国への情報発信等の国際活動を担当している。また、国際部に関連して、現在、厚生労働省が設置を検討している「アジア医薬品・医療機器薬事トレーニングセンター」は、アジアを始めとする各国の薬事規制担当者に対し、薬事に関する研修を実施することにより、日本の薬事制度の理解を促し、日本の治験等をもとに承認された製品の各国における承認の迅速化を図り、日本の製薬産業の振興を図るものとされている。</p> <p>1)ジェネリック医薬品等審査部          ジェネリック医薬品等審査部は、県内の多くの製薬メーカーが、新しいジェネリック医薬品の開発・製造のために、相談・審査で関係している部門である。ジェネリック医薬品等審査部が富山県に移転した場合、県内のジェネリック医薬品を製造する製薬企業にとって、高い技術を生かして付加価値を高めた新しい製品の開発に関する相談を行いやすくなるとともに、審査段階における審査部とのやりとりのコストが減ることが期待される。これによって、このような付加価値の高いジェネリック医薬品の開発・製造が促進され、富山県の医薬品産業がより振興することが期待される。</p> <p>2)国際部(アジア医薬品・医療機器薬事トレーニングセンターを含む。)          国際部は、薬事規制の国際調和等の業務を担当し、その調和等の動向の情報を発信しており、海外に進出している、又はそれを考えている富山県の製薬企業は、国際部が発信する情報に高く注目している。国際部が富山県に移転した場合、県内製薬企業にとって、薬事規制の国際調和等の動向の情報を入手することがより容易になり、富山県の製薬企業の国際展開が促進される。また、各国の薬事規制担当者が来日し、国際部のある富山県を訪問することにより、高度な医薬品の生産拠点として、富山県や富山県内の製薬企業の知名度が高まり、富山県の医薬品メーカーの国際化に寄与することが期待される。          また特に、厚生労働省が設置の方針を示している「アジア医薬品・医療機器薬事トレーニングセンター」が富山県に移転(設置)した場合、特に、医薬品の製造管理基準(GMP)の適性調査に係る実地研修について、県内製薬企業や富山県薬事研究所が協力して、海外の薬事規制担当者に対して充実した研修を行うことができる。このような研修の実施を通じて、海外の薬事規制担当者が日本の薬事制度に習熟し、日本の医薬品への信頼が高まることにより、日本全体の製薬企業に対して、アジア等海外への進出の手助けになることが期待される。また、海外の薬事規制担当者が研修の一環として、富山県の製薬企業の工場等を詳しく視察することが期待されることから、これらの担当者において、高い技術を生かした高品質の医薬品の生産拠点としての富山県の知名度が高まり、富山県の医薬品メーカーの国際化により寄与することが期待される。なお、これまで公益社団法人国際厚生事業団が実施している海外の薬事担当行政官を対象とした研修において、GMP適性調査等に関する実地研修を富山県で受け入れて実施している実績があるため、「アジア医薬品・医療機器薬事トレーニングセンター」における実地研修においても、円滑な実施が十分に期待できる。</p> <p>イ)国の機関としての機能確保          富山県は、東京、大阪、名古屋の3大都市圏からそれぞれ270km以内のところに所在し、いずれの大都市圏からもアクセスがしやすいバランスの取れた立地になっている。特に東京圏とは、平成27年3月に北陸新幹線が開業し、富山駅から東京駅まで最短2時間8分で結ばれるなど、交通の便が向上している。また、空路では富山市中心部から車で約15分という至近距離に富山きとと空港が所在し、羽田空港・千歳空港への国内線や、ソウル・上海等への国際線が就航しているほか、陸路では県内を北陸自動車道や東海北陸自動車道が走り、道路網も整備されている。海路でも、日本海側の総合的拠点港である伏木富山港が県内に所在している。          このように、陸海空に渡って国内・国外との交通網が整備されており、アクセスが良好であることから、要望した政府関係機関が富山県に移転した場合にも、これまでと変わらず、その機能を発揮することが期待できる。          また、「アジア医薬品医療機器薬事トレーニングセンター」が富山県に移転(設置)した場合には、特にその実地研修の面では、アジアにおいても活用されている和漢薬に関する全国唯一の共同利用・共同研究拠点である富山大学和漢医薬学研究所や、「製剤開発・創薬研究支援ラボ」を有する富山県薬事研究所、そして高度な技術を有する県内製薬企業や製薬関連産業の企業との連携により、首都圏に「アジア医薬品医療機器薬事トレーニングセンター」を設置するよりも効果的な実地研修を行えることが期待され、日本全体にとっても多くのメリットが見込めると考える。</p>

<p><b>⑥ 誘致のための条件整備の案</b>  ※少なくとも、以下のことについて、誘致自治体による協力のあり方を含めた条件整備の案を示してください。  ア 施設の確保等  移転先の施設の確保・設置のための具体的な条件整備の案を示すこと。  イ 職員の居住環境確保への協力  職員の居住環境の確保について、国又は独立行政法人等に協力すること。</p>	<p>ア)施設の確保等  移転後の県内関係機関との円滑な連携を確保する観点から、誘致機関の移転先として、県が所有している富山県薬事研究所の敷地内を考えている。本敷地には、空間的な余裕があることから、今後、移転機関の規模に応じて、新しい施設の整備により、必要な施設を確保したいと考えている。  なお、施設の確保等に当たっては、政府関係機関の地方移転が東京一極集中を是正する取組みとして実施されることに鑑み、移転先の施設確保や移転費用についても、国において必要な予算措置がなされることを要望する。</p> <p>イ)職員の居住環境の確保への協力について  富山県は全国トップクラスの住みよい県として、極めて良好な居住環境が整っている。また、誘致予定地は、小中学校(中太閤山小学校、小杉南中学校)が近く、ショッピングセンターやスーパーマーケットも数百メートル内にあるなど、教育面・生活面においても非常に利便性の高い地域にある。  富山県薬事研究所の周辺においても個々の職員のニーズや家族形態に合う多様な住居が存在していることから、移転機関の職員の居住環境の確保に特段の支障はないものと考えているが、その確保に当たっては、PMDAに協力する。  なお、職員の居住環境確保に当たっては、政府関係機関の地方移転が東京一極集中を是正する取組みとして実施されることに鑑み、この確保に必要な費用等についても、国において必要な予算措置がなされることを要望する。</p>
<p><b>⑦ その他誘致に当たり解決すべき課題への対応策の案</b>  ※上記の他、当該施設の誘致の提案にあたって、解決すべきと考えられる論点とそれへの対応策を記述してください。</p>	<p>PMDAは、その業務の遂行に当たり、PMDAの部門間や厚生労働省等と日々綿密な連携を図っている。また、そのやり取りの中には、高度な情報セキュリティに基づき取り扱うべき情報も含まれる。そのため、PMDAの一部が富山県に移転した場合においても、その他のPMDAの部門や厚生労働省等との円滑な連携を引き続き確保する必要がある。  この課題については、例えば、高度な情報セキュリティに対応した遠隔会議システムの設置などの設備の整備により解決できると考える。  なお、このような設備の整備に関して、政府関係機関の地方移転が東京一極集中を是正する取組みとして実施されることに鑑み、必要な費用等についても、国において必要な予算措置がなされることを要望する。</p>
<p><b>⑧ 関係する市町村の意見等</b>  ※当該誘致について、関係する市町村の意見等を記述してください。</p>	<p>射水市として、この誘致提案に全く異論がないことを確認した。誘致が実現すれば、射水市在住の学生等の就職先となり得ること、また、製薬業界への関心が強まり、県内製薬企業への就職希望が増大するなど、若い世代の人口の維持・増加につながり、地方創生が推進されることへの期待が寄せられた。</p>
<p><b>⑨ 道府県等の提案団体の担当課長</b></p>	
<p>職名・氏名  電話番号(直通)  電子メールアドレス</p>	<p>厚生部くすり政策課長・坂西義史  076-444-3235  yoshifumi.banzai@pref.tovama.lg.jp</p>
<p><b>⑩ 道府県等の担当団体の担当者</b> ※今後、当事務局との連絡を担当する者を記入してください。</p>	
<p>職名・氏名  電話番号(直通)  電子メールアドレス</p>	<p>厚生部くすり政策課振興開発班長・仁木良市  076-444-8749  rvoichi.niki@pref.tovama.lg.jp</p>

## II 基本的な考え方

### 1 戦略策定のポイント

#### （5）先駆的な富山モデルをさらに磨き上げ

また、「くすりの富山」の特徴を活かした医薬品生産拠点づくりや最先端ものづくり産業クラスターの形成、平成26年10月に「世界で最も美しい湾クラブ」への加盟が認められた「世界で最も美しい富山湾」のブランド活用など、富山ならではの特色あふれる先駆的事業をさらに拡充します。

## IV 具体的な施策

### 【基本目標2】雇用の創出、産業振興、県外からの移住促進

#### 1 若者や女性がいいきと働き暮らせる魅力ある地域づくり

##### （ア）企業立地等の促進

##### ④政府関係機関等移転の促進

○東京一極集中を是正し、本県への「ひと」の流れを加速するため、政府関係機関の地方移転に係る提案募集に関して、本県の地方創生に資する機関の誘致への取り組み

○誘致に当たっては、本県が強みを持つ医薬品関連などの分野を念頭に置いて検討

#### 3 産業・地域経済の活性化

##### （ア）富山の強みを活かした成長産業の育成

##### ①「薬都とやま」の産業集積を活かしたライフイノベーションの推進

○本県の強みである高いものづくり技術や産業集積を活かして、医薬・バイオなどの健康関連産業への本県企業の参入を促進

##### ◆重要業績評価指標（KPI）：

医薬品生産金額（厚生労働省 薬事工業生産動態統計調査）

[現状（H25）]6,089億円 → [目標（H33）]7,500億円

バイオ関連商品の年間売上高（富山県庁商工企画課まとめ）

[現状（H26）]156.5億円 → [目標（H33）]190億円

※医薬品研究成果を活かした実用化支援を検討

（具体的な事業）

- ・ 医薬バイオ地域イノベーション戦略推進事業（H27当初・商労）
- ・ 富山大学連携地域イノベーション推進事業（H26.2月補正・商労）
- ・ 世界の薬都連携チャレンジ事業（H27当初・厚生）
- ・ 医薬工連携促進事業（H27当初・商労）
- ・ 医薬工連携ネットワーク事業（H27当初・商労）

# 独立行政法人医薬品医療機器総合機構 ジェネリック 医薬品等審査部及び国際部の移転提案について

## 背景

- ・富山県には製薬企業やその周辺産業の企業が多数集積し、全国有数の医薬品生産拠点になっている。
- ・富山県の医薬品産業がさらに発展していくためには、高い技術を生かして付加価値を高めた新しい製品の開発促進と、国内のみならず海外の市場にも目を向け、海外新興国等の医薬品需要の増加を取り込むことが必要。

## 目的

- ・東京の一極集中を是正するため、地方それぞれの地域資源や産業事情を踏まえて、地方における「しごと」と「ひと」の好循環を促進する。
- ・富山県は、300年以上の歴史を持つ「配置薬」の伝統から続く、医薬品産業の集積地であり、その特色を生かして、地方創生に取り組む。

### (独) 医薬品医療機器総合機構

- ・医薬品・医療機器等に関する審査・調査、安全対策、副作用被害の救済を実施している独立行政法人
- ・現在、右の2部門を含む主たる法人事務所が東京都千代田区に所在

### ジェネリック 医薬品等審査部

東京一極集中是正の観点も踏まえて、これらの2部門を国内有数の医薬品製造拠点である富山県に移転

(担当業務)

- ・ジェネリック医薬品の開発に関する企業からの相談の対応
- ・ジェネリック医薬品の製造販売承認申請に係る審査 等

「くすりの富山」に誘致

### 国際部

(担当業務)

- ・医薬品等に関する国際調和活動への参画・貢献
- ・諸外国への情報発信 等

### 富山県の製薬企業

高度な製造技術を有し、海外へ進出又はそれを検討しているジェネリック医薬品等の製薬企業が所在。

(期待される効果)

- ・高度な技術を生かした、付加価値の高いジェネリック医薬品の開発がしやすくなり、産業振興につながる。

海外情報等の入手

- ・国際的な薬事規制の調和等の動向を入手しやすくなり、国際展開が促進。
- ・各国の薬事規制当局者の富山県来訪が増え、生産拠点としての知名度が向上。



「くすりの富山」の国際的な医薬品製造拠点化を図り、日本の医薬品産業をより海外で稼げる産業にする

# アジア医薬品・医療機器薬事トレーニングセンターの 富山県への移転(設置)提案について

## 背景

- ・国内の医薬品を海外に輸出・販売する場合には、通常、輸出先の国において販売の承認を得る必要がある。
- ・現在は、日本で承認済みの医薬品であっても、各国で改めて詳細に審査するため、時間や費用がかかる。
- ・各国での承認審査手続きが負担となり、国内の製薬企業の海外進出の妨げになっている。

## 目的・方法

- ・アジア諸国を中心に、各国の薬事規制当局の担当者を日本で研修し、日本の薬事制度の理解を促す。
- ・アジア諸国を中心に、日本での試験・審査で承認された医薬品の当該国での審査・承認の迅速化を図る。
- ・日本で承認された医薬品の海外での販売を円滑化し、国内製薬企業の海外進出を促進する。

### (独)医薬品医療機器総合機構

- ・医薬品等に関する審査・調査、安全対策、副作用被害救済を実施
- ・医薬品等の規制に関する国際的な調和のための調整や、各国の薬事規制当局との協力も実施

## アジア医薬品・医療機器薬事トレーニングセンター

「くすりの富山」に設置

(担当業務(案))

- ・アジア諸国を中心に、各国の薬事規制当局の担当者を受け入れ、以下の研修を行う。
  - ①日本における医薬品審査制度
  - ②日本における医薬品の製造管理・品質管理の制度(実地研修を含む) 等

厚生労働省が設置を目指す方針を表明

日本の医薬品への信頼を高め、国内企業の海外進出を支援

優れた製造技術・高度な品質

### 富山県薬事研究所

都道府県で唯一の薬事の研究機関。研究及び技術支援等の基盤あり

### 富山大学和漢医薬学総合研究所

和漢薬に関する全国唯一の共同利用・共同研究拠点であり、伝統薬分野で連携

### 富山県の医薬品企業

高度な製造技術を有する工場が集積し、GMP模擬査察等に好適



「くすりの富山」の基盤を活用し、日本の医薬品産業をより海外で稼げる産業にする



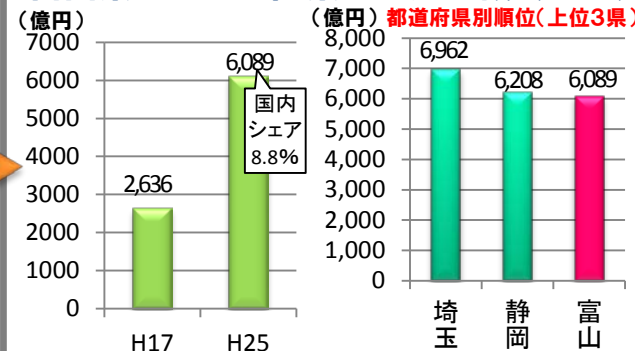
# (参考) 国内有数の製剤技術の拠点「くすりの富山」

## 医薬品生産拠点として発展し続けている富山県

- ◇ 新薬開発型、特殊剤型、ジェネリック、配置薬など100超の工場が集積
- ◇ 国内有数の医薬品生産拠点 都道府県別生産金額 H25年 6,089億円(3位)
- ◇ 活発な設備投資・・・平成26年以降も 900億円を超える投資予定
- ◇ 製剤技術の向上のため、産学官が連携

H17~25投資額 約1,500億円

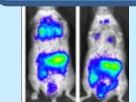
## 富山県における医薬品生産金額 (H25)



## 全国唯一の公設薬事研究所

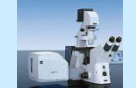
- ・富山県薬事研究所に、「製剤開発・創薬研究支援ラボ」を整備し、県内メーカーの研究開発や薬学部生等の人材育成を支援

### 創薬研究



In vivo イメージング装置

「薬物の体内分布を観察する装置」  
マウスに投与した薬物の体内分布を解析し、薬剤の動きを検証



共焦点レーザー顕微鏡

「薬物の作用を細胞レベルで観察する装置」  
薬物投与により増加する細胞の種類や機能変化を解析

### 製剤開発



味覚試験装置 (味覚センサー)

「医薬品等の味を数値化し、解析する装置」  
苦みの強い薬物のマスキング効果を評価し、飲みやすい製剤開発に活用



レーザー回折式粒子径分布測定装置

「医薬品原料や顆粒剤等の粒子径分布を測定・解析する装置」  
原料や試作した顆粒剤等の大きさや形状を評価。軟膏・クリーム剤など製剤開発に活用

## 製剤技術を支える県内大学

### 富山大学大学院 医学薬学研究部

- ・平成27年度より、製剤技術等を専門とする寄附講座「製剤設計学講座」を設置



国内最大級のジェネリック医薬品メーカー日医工(株)が協力

### 富山大学大学院 理工学教育部

- ・修士課程の学生向けの「ファーマ・メディカルエンジニア養成コース」において、製剤技術を含む高度な医療系技術人材を育成

### 富山大学 産学連携部門

- ・社会人向けの「次世代スーパーエンジニア養成コース」において、県内製薬業界と連携して、製薬企業の技術力向上等を支える実践的な次世代技術者を育成

## 技術力に優れた県内企業

- ・経皮吸収型製剤の有効性を立証。消炎鎮痛剤のテープ剤が好調

リードケミカル(株)



- ・DPI(経肺・経鼻粉末吸入) 製剤専用工場など多様な剤型を製造

東亜薬品(株)

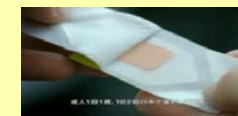


- ・パップ剤、点眼剤(世界初最新型ロボットシステム導入)等の技術が集積

テイカ製薬(株)

- ・水なし服用できる口腔内フィルム製剤を開発

救急薬品工業(株)



- ・ゲル状の基剤を噴霧する鼻腔内投与型製剤で注目

東興薬品工業(株)



# くすりの富山県

PHARMACEUTICAL INDUSTRY IN TOYAMA



# 富山県の概要と特徴

富山県は本州の日本海側中央部に位置し、東京、大阪、名古屋の3大都市圏から各々270キロ以内のところ  
にあり、交通網も整備されています。また、平成27年3月には、北陸新幹線が開通し、東京・富山間が最短  
2時間8分で結ばれ、未来に向けてますます人や文化の交流、物流の活性化が見込まれます。

## 富山県データ

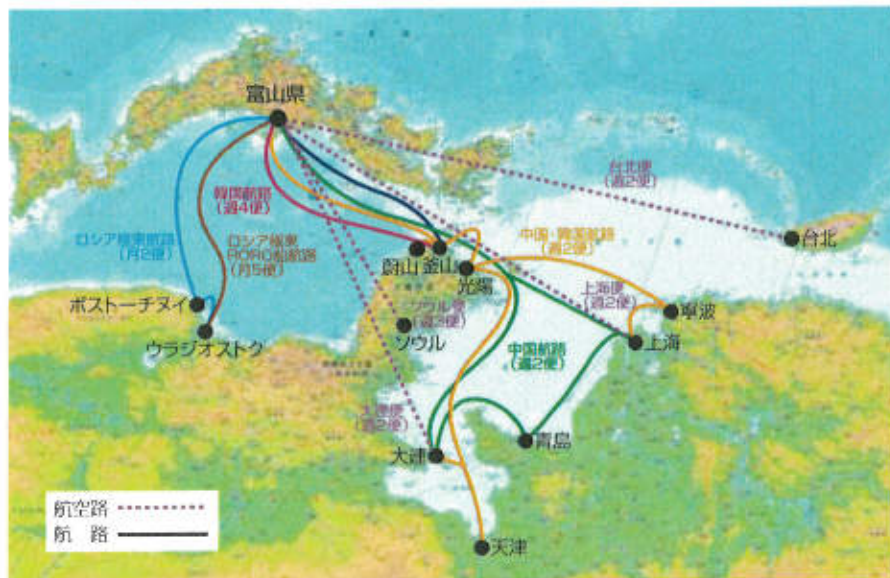
面積：4,248km<sup>2</sup>      人口：107万人（H26.10現在）  
位置：北緯36度16分～36度59分  
東経136度46分～137度46分

## 高い人口集積

富山県は人口の大部分が平野部に集積し、県内の隅々まで  
公共交通機関、道路が整備されているため、30分の通勤圏  
内に50万人程度の人口集積があります。

## 県内を網羅する交通網

JR線、あいの風とやま鉄道、地鉄、路面電車、富山ライ  
トレールの鉄道が整備され、県内各地を結んでいます。



環日本海・東アジア諸国図（通称「逆さ地図」）

## 航空路・航路データ

- ①航空路線
- |          |        |        |
|----------|--------|--------|
| 富山 → ソウル | : 3便/週 | 1時間50分 |
| 富山 → 大連  | : 2便/週 | 2時間15分 |
| 富山 → 上海  | : 2便/週 | 2時間20分 |
| 富山 → 台北  | : 2便/週 | 2時間55分 |
- ②航路
- |                               |        |
|-------------------------------|--------|
| 中国航路（富山 → 大連、青島、上海）           | : 2便/週 |
| 韓国航路（富山 → 釜山）                 | : 4便/週 |
| 中国・韓国航路（富山 → 釜山、大連等）          | : 2便/週 |
| ロシア極東航路（富山 → ポストーチナイ、ウラジオストク） | : 2便/月 |
| ロシア極東 RORO 船航路（富山 → ウラジオストク）  | : 5便/月 |

## 環日本海交流の拠点

日本海を取り巻く地域は「環日本海  
交流圏」を構成しています。本県は環  
日本海交流の拠点として、富山空港や  
伏木富山港から、対岸諸国への航空路、  
航路が整備されています。

### 富山きときと空港

富山市中心部から車で約15分の至近距  
離に位置し、地方空港としては、全国でト  
ップクラスの国際定期路線を備えています。

### 伏木富山港

伏木富山港は富山新港、富山港、伏木港  
の3つの港で形成され、環日本海交流の中  
核を担う国際貿易港として重要な役割を担  
っています。



富山新港



雨晴海岸から見た立山連峰  
海の上に3,000m級の山々を  
望むことができます。



称名滝  
立山連峰の水を集め、  
落差350mは日本一を誇ります。

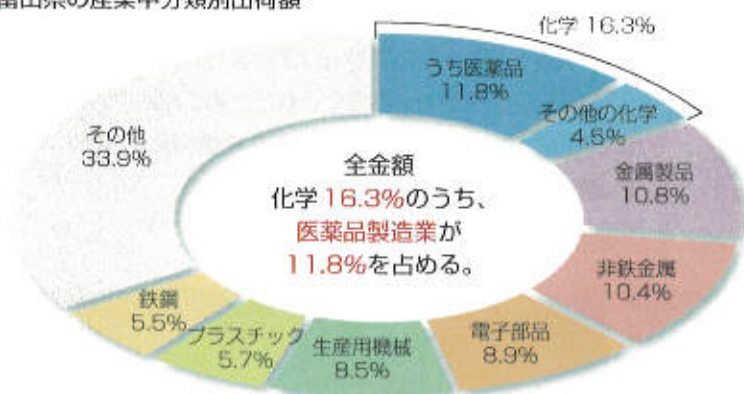
## 美しく豊かな自然環境

本県は、立山連峰など標高3,000m級の山岳地帯から、水深1,000mを超える富山湾まで、変化に富んだ自然を有しています。また、植生自然度が全国3位、自然公園の面積比率も全国5位で、良質で豊富な水や新鮮で美味しい食材がとれ、豊かな自然に恵まれています。

## 日本海側屈指の工業集積

豊かな水資源と低廉な電力を活用し、重化学工業が発展しており、近年では電子部品やデバイスなどの電子産業が伸び、日本海側屈指の工業集積県となっています。

### 富山県の産業中分類別出荷額



出典：平成24年富山県の工業

### 優れた技術の例

- ・自動車製造用産業ロボット
- ・癒し系ロボット
- ・超大型樹脂成形システム
- ・経皮吸収剤、  
経鼻・経肺製剤等、  
医薬品の特殊製剤技術

### バラエティーに富んだ製造業

電子部品、デバイス、一般機械、  
金属製品（アルミ、銅器等）  
化学工業（医薬品等）

### 富山県の医薬品産業

富山県の医薬品産業は江戸時代中期から300年以上の歴史を有する本県の代表的な伝統産業です。薬業資本により銀行や電力会社が創られ、本県産業の近代化に大きく貢献しました。

現代においては、最先端の工場も多数立地するなど、国内有数の医薬品製造拠点となっています。



## 医薬品製造業の集積

富山県の医薬品製造業は、新しい技術による医薬品の開発や品質の向上に努めており、医療用をはじめ、一般用、配置用の医薬品を国内外に供給しています。

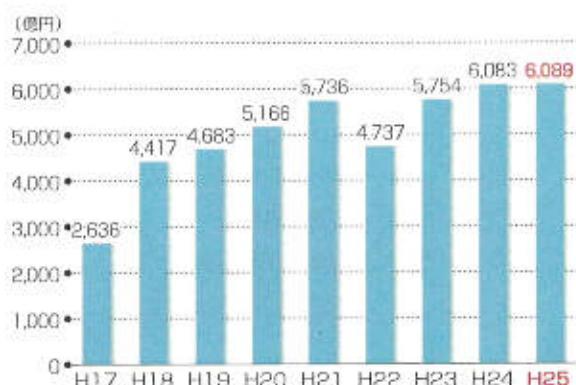
### 医薬品の生産拠点としての高い評価

県内には新薬開発型メーカー、ジェネリックメーカー、大衆薬メーカー、配置薬メーカーなど、メーカー81社と100を超える製造所の集積があります。中でもパップ剤や軟膏剤、目薬などの特殊製剤については高い製造技術を有しています。

また、包装容器、パッケージ、印刷等の周辺産業も充実しており、医薬品の生産拠点として高い評価を得ています。



優れた製造設備による医薬品製造



※ H25年の医薬品生産金額は過去最高額。

### 富山県医薬品生産金額の推移

本県の医薬品製造業は最新の設備を有しており、厳しい製造・品質管理基準に基づき、品質が確保された医薬品を製造しています。

平成17年4月の薬事法改正により、医薬品製造業のアウトソーシングが完全自由化されたため、県内の製造所では受託生産の拡大を目指し、積極的な設備投資に取り組んでおり、富山県薬業の更なる飛躍が期待されます。





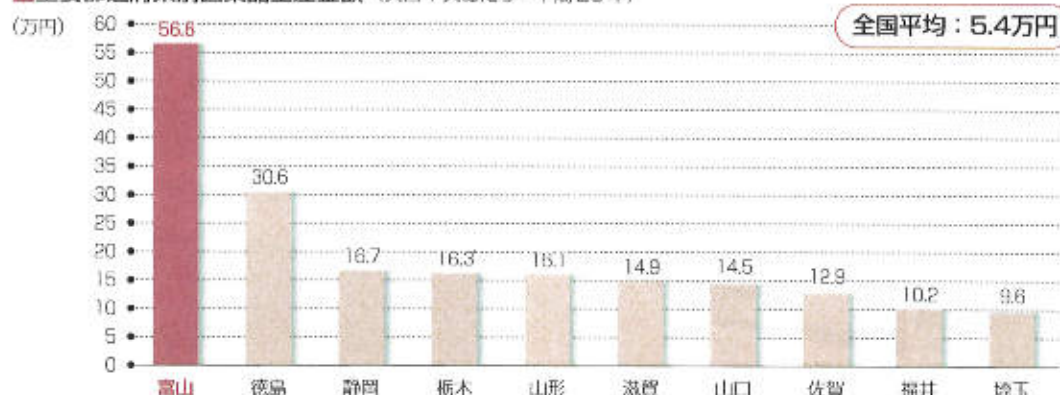
# 全国でトップの地位を誇る「富山のくすり」

富山県の平成25年の医薬品生産金額は6,089億円年全国第3位です。また、人口あたりの医薬品生産金額、製造所数、製造所従業者数は全国第1位となっており、本県は「くすりの富山」として全国に知られています。

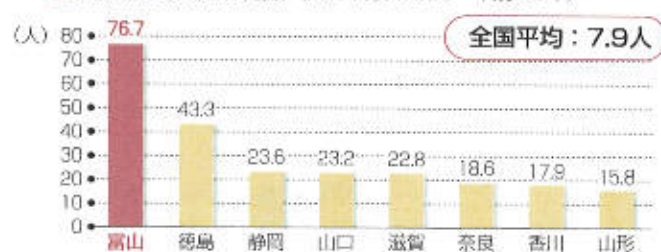
■主要都道府県別医薬品生産金額（平成25年）



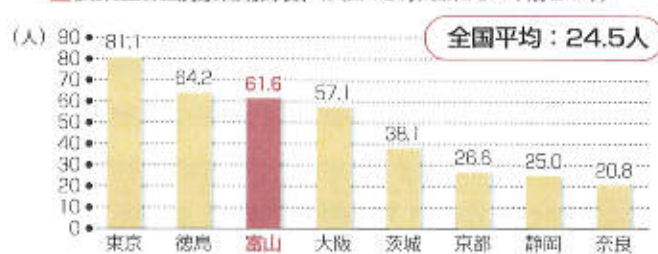
■主要都道府県別医薬品生産金額（人口1人あたり・平成25年）



■医薬品製造従業者数（人口1万人あたり・平成25年）



■製薬企業勤務薬剤師数（人口10万人あたり・平成24年）



■医薬品製造所数（人口10万人あたり・平成25年）





## 充実した研究・教育機関～産・学・官が一体となった研究開発体制～

富山県では公的研究機関による研究・開発体制の充実を図り、産学官が一体となった創薬・育薬研究の振興に取り組んでいます。県立の施設としては全国唯一の薬事研究所や薬用植物指導センターがあり、和漢薬などの医薬品に関する試験研究や製薬企業への技術指導、薬用植物の栽培普及などに取り組んでいます。

### 県薬事研究所

富山県の薬業技術の向上を図るため、医薬品、薬剤・薬理等に関する試験をはじめ、企業への技術指導を行うとともに、新製品の開発のために和漢薬、バイオテクノロジー等の新しい研究にも取り組んでいます。

平成27年3月には、最先端の機器を整備した「製剤開発・創薬研究支援ラボ」を設置し、県内製薬企業の研究開発支援体制を更に強化しました。



### 薬用植物指導センター

医薬品の原料となる薬用植物の栽培普及を図り、併せて山村振興の一助とするために設立され、薬用植物栽培技術の確立、栽培普及指導、薬草の知識普及等に努めています。



■富山県の薬業関係行政機構及び教育・研究機関の体系図







富山大学和漢医薬学総合研究所（杉谷キャンパス）

## 産・学・官の連携

### ■和漢薬製剤開発分野

富山県、県内製薬団体等からの寄附により、平成16年7月から富山大学和漢医薬学総合研究所内に寄附研究部門「和漢薬製剤開発分野」を設置し、新たな富山ブランドの和漢薬製剤等の開発や県民への漢方医療情報提供に取り組んでいます。

### ■免疫バイオ・創薬探索研究講座

平成19年4月から富山大学大学院医学薬学研究部に寄附講座「免疫バイオ・創薬探索研究講座」を設置し、免疫システムを制御する天然物の探索など、バイオテクノロジーを利用した創薬探索研究を推進しています。

### ■白樺成分ベツリンの「がん免疫」の効果増強作用に基づく創薬研究 平成20年度～

薬事研究所では、がんによる免疫抑制作用を抑える免疫増強剤の候補物質として白樺成分のベツリンを見出し、有用な医薬素材の開発に結びつけるべく研究を進めています。

研究にあたっては、富山県立大学や、富山大学大学院医学薬学研究部の寄附講座「免疫バイオ・創薬探索研究講座」と連携し取り組んでいます。



## 富山大学

富山大学は、2005年に県内3大学の統合・再編により、その教育・研究体制は大きく変化しました。医学、薬学、人文、経済学部など8学部、和漢医薬学総合研究所や大学附属病院を擁する、日本海側有数の基幹的な総合大学となりました。

産学官連携による  
富山オリジナルブランド医薬品(第2弾)  
「越撰」(エッセン)

県薬業連合会、富山大学、県が共同で開発したオリジナルブランドの医薬品です。サンザシ、ウバイ、ショウキョウなど6種類の生薬を配合した高齢者にも服用しやすい健胃整腸薬です。ほかにも、オリジナルブランド第1弾の医薬品として、滋養強壮保健薬「パナワン」があります。



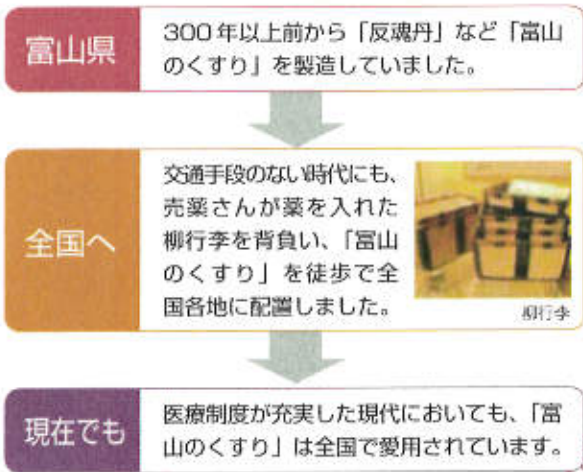
# 300年以上の歴史と伝統を持つ「富山のくすり」

富山県が生んだ配置薬業は 300 年以上の歴史と伝統を有し、現在まで重要な産業として発展してきました。「富山のくすり」は、本県配置従事者の手で、信頼とともに全国に届けられています。

## 「富山のくすり」の歴史と伝統

一般的に、本県配置薬業の起源は、江戸時代の第 2 代富山藩主、前出正甫の功績として伝えられ、1683 年に岡山県の医師、万代常閑から「反魂丹」の処方伝授されたとされています。そして、1690 年、江戸城内で腹痛を起こした大名に、正甫公が「反魂丹」を与えたところ、すぐに治ったことから、これを見た諸藩主から「反魂丹」を売り広めるよう頼まれました。これが富山の配置薬業の始まりとされます。

## ■全国に展開した「富山のくすり」



## ■配置用医薬品生産金額 (平成 24 年)



平成 24 年における全国の配置用医薬品生産金額は 247 億円であり、富山県は 130 億円と、全国生産の 50% 以上を占めています。



娯楽が無い時代には、売薬版画や紙風船をお土産として持っていき、人々との信頼関係構築に努めました。

紙風船▶  
売薬版画▼



#### 配置箱

配置箱には、かぜ薬や胃腸薬、点眼薬など、よく使用される医薬品が配置されています。



## 配置販売システムとは

- ①最初に配置販売業者が各家庭を訪問します。
- ②「配置箱」に医薬品を入れ、家庭の常備薬として預けます。
- ③消費者は必要な時に必要な医薬品を使用します。
- ④その後、配置販売業者が一定期間ごとに家庭を訪問し、どれだけの医薬品が使用されたかを調べ、同時に、医薬品の補充を行います。
- ⑤最後に、使用された医薬品の代金を請求します。



得意先との親しい会話が大切



「消費者に先に使用してもらい、使った分だけ、後で代金をいただく」という独特の販売形態を「先用後利」といいます。本県薬業はこの考え方を大切にして、発展してきました。

家庭だけでなく、事務所でも配置箱は活躍しています。

## 明日の「富山のくすり」を担う人材育成

富山県では薬業に携わる人材育成を図るため、早くから薬業教育に力を入れてきました。

約300年前には行商に必要な知識を学ぶための寺子屋が普及し、約100年前には薬学校（現在の富山大学）が創設されました。現在は、県立の高校にも薬業専攻科があるなど、これからの「富山のくすり」を担う人材を育成しています。

### ■地域ブランド「富山のくすり」

300年の歴史と伝統を持つ「富山のくすり」は本県を代表する地域ブランドです。

（一社）富山県薬業連合会が特許庁に申請していた団体商標「富山のくすり」が、平成19年7月に、正式に登録査定を受けました。

これにより「富山のくすり」は全国的な知名度を有するものとして認定されました。

### 団体商標「富山のくすり」 ロゴ・シンボルマーク



富山のくすり

#### <シンボルマーク>

富山の売薬さんは300年以上も前から、全国のお家庭に「安心」を運んでいました。

その「安心」のシンボルである売薬さんのシルエットにも見え、富山のアルファベットの頭文字「T」にも見えるシンボルマークで、「安心ある富山のくすり」を表します。

#### <カラーの配色>

緑色は本県の魅力である「雄大な自然」、オレンジ色は「安心・暖かみ」をイメージさせます。



# 県内薬業関連資料館・施設のご案内

富山県には、多くの薬業関連施設が存在します。本県配置薬業の歴史と伝統を見ることができ、「薬都・とやま」のルーツを探ることができます。



## 「富山のくすり」ユニークなデザイン

配剤用医薬品のパッケージには、ユニークなデザインがほどこされています。





## ① 富山県薬用植物指導センター

シャクヤク園、ハーブ園、ポタン園などで、多くの薬用植物を見ることができます。

- 住 所 中新川郡上市町広野 2732
- T E L 076-472-0801
- 交 通 地鉄上市駅下車、車 10分
- 開館時間 月曜日～金曜日（平日）9:00～17:00
- 休 館 日 ※団体で見学される場合は、事前に連絡して下さい。



## ② 富山県民会館分館 金岡邸

金岡邸には300年の歴史を持つ富山売薬業に関する資料が展示されています。母屋部分は明治初期の商屋で、薬種商店舗の遺構をとどめています。

- 住 所 富山市新庄町1丁目5番24号
- T E L 076-433-1684
- 交 通 地鉄新庄駅下車徒歩5分
- 開館時間 9:00～16:00
- 休 館 日 毎週火曜日及び年末年始



## ③ 富山市売薬資料館

資料館の展示室には行商用具や、製薬に使われた道具、売薬版画等の土産品など、富山売薬の歴史を伝える様々な資料が展示されています。

- 住 所 富山市安養坊 980
- T E L 076-433-2866
- 交 通 地鉄バス 呉羽老人センター行、富山市民俗民芸村下車すぐ  
または新桜谷行、安養坊下車徒歩5分
- 開館時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）
- 休 館 日 年末年始（12月28日～1月4日）、臨時休館あり



## ④ 滑川市立博物館

滑川は、富山県内でも売薬の盛んな地域であり、各種の薬業資料が展示されています。

- 住 所 滑川市開 676
- T E L 076-474-9200
- 交 通 JR滑川駅下車、車 15分
- 開館時間 10:00～18:00（入館は17:30まで）
- 休 館 日 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は火曜日）、祝日の翌日



### ■ 薬業関係 HP の URL

- ・富山県 <http://www.pref.toyama.jp>
- ・富山県薬事研究所 <http://www.toyama-yakuji.com>
- ・富山県立富山北部高校 <http://www.tomihoku-h.tym.ed.jp/>
- ・富山県立滑川高校 <http://www.namerikawa-h.tym.ed.jp/>
- ・富山市和漢薬情報システム <http://www.city.toyama.toyama.jp/etc/wakanyaku/s-kusuri.html>
- ・富山大学 <http://www.u-toyama.ac.jp/>
- ・富山のくすり HP（富山県薬業連合会） <http://www.toyama-kusuri.jp/>





富山のくすりイメージキャラクター  
くすりん

別紙様式 地方創生に資すると考えられる政府関係機関の地方移転に係る提案

※記入にあたっては、「政府関係機関の地方移転に係る道府県等の提案募集要綱」(別添1)を参照してください。また、適宜、参考資料を添付してください。

<p>① 道府県等の提案団体の名称</p>	<p>富山県</p>
<p>② 関係市町村の名称</p>	<p>射水市</p>
<p>③ 誘致を希望する政府関係機関の名称 ※まとのりの一部分の組織・機能の移転や地方拠点の設置を希望する場合はそのことが明確に分かるよう記載してください。</p>	<p>国立医薬品食品衛生研究所(薬品部に限る)</p>
<p>④ 誘致先の予定地 ※住所、面積、交通アクセス等当該予定地の現況を記載してください。</p>	<p>富山県射水市中太閤山17-1 富山県薬事研究所敷地内 敷地面積35,323平方メートル(既存の建物2,595平方メートルあり)</p>
<p>⑤ 誘致の必要性・効果 ※以下のア、イの内容について必ず記載してください。 ア 地方版総合戦略の重要な要素であること。 当該地方公共団体の総合戦略の重要な要素と、誘致する機関の業務・機能とが密接に関連し、総合戦略の目標達成にとって当該機関の移転が重要な要因となるものであること。また、例えば研究機関の移転であれば、特定分野の産学官の研究集積又は当該分野の関係産業の集積がなされている等、現状において一定の強みを持つものであること。(併せて地方版総合戦略の案の該当部分を参考資料として添付してください。)  イ 国の機関としての機能確保 当該機関が現在地から当該道府県に移転することにより、国の機関としての機能が確保でき、運用いかによってはむしろ向上することが期待できること。(例えば、移転により当該道府県以外の道府県の利便性が悪化し、国全体としての機能が低下しないか、移転により現在機能が集積していることの強み・メリットを損なうことにならないか等の問題点があったとしても、それを上回るだけの移転のメリットがあるか、など。)</p>	<p>ア)地方版総合戦略の重要な要素であること ＜富山県における医薬品産業の重要性＞ 富山県は、江戸時代から始まり300年を超える歴史を有する配置薬業(置き薬)から続く、国内でも有数の医薬品製造拠点であり、「くすりの富山」として全国的に知られてきた。美しく豊かな自然、地震や台風などの自然災害の少ない地理、陸海空にわたり整備された交通網などの強みにより、近年、医薬品の研究開発・製造拠点として益々注目が高まり、日本最大手のジェネリック医薬品専業メーカーを始め、高い製造技術を有する製薬企業や、容器・包装などの周辺産業の企業が県内に集積している。また、平成25年の医薬品生産金額は約6,089億円と過去最高額を記録し、都道府県別で埼玉県・静岡県に次ぐ第3位となっている。人口1人当たりでは約57万円であり、2位の徳島県(約31万円)を引き離して全国1位となっている。県内の産業中分類別出荷額においても医薬品は全金額の約12%を占め、文字どおり富山県の基幹産業の一つとなっている。  ＜富山県の医薬品産業の地方版総合戦略における位置づけとこれまでの取り組み＞ 富山県は、この医薬品に加えて、その他の化学や金属製品等の工業も集積した日本海側随一の「ものづくり県」であり、医薬品を含むものづくり産業を発展させていくことを「富山の強みを活かした成長産業の育成」として、富山県版総合戦略「とやまの未来創生戦略(仮称)」における基本目標「雇用の創出、産業の振興、県外からの移住促進」の具体的な施策の一つとして位置づけている。戦略の中では、医薬品について「平成33年の医薬品生産金額7,500億円」という目標を設定し、これらの目標を達成することにより、富山県の地方創生を図り、活力ある「元気とやま」の実現を図ることを掲げている。医薬品産業の振興のため、これまで富山県では、「製造技術力等の強化と関連事業等との連携」「情報発信と企業立地しやすい環境づくり」「国際化の推進」「人材の確保・育成」などの方向性を掲げ、種々の施策に取り組んできた。例えば、平成27年3月には、県立の施設では全国唯一の薬事専門の研究所である「富山県薬事研究所」に、最新の試験・研究機器を備えた「製剤開発・創薬研究支援ラボ」を開設し、新しい医薬品の研究開発の支援に取り組んでいるところである。  ＜移転により期待できる富山県における効果＞ このような富山県の医薬品産業が更に飛躍するためには、県内製薬企業がその高い製造技術を生かし、患者さんの利便性向上等の工夫を凝らして付加価値を高めた医薬品の開発を促進するとともに、国内のみならず海外の市場にも目を向け、海外新興国等の医薬品需要の増加を取り込み、更なる成長を図ることが必要となっている。 今回移転を要望する国立医薬品食品衛生研究所の薬品部においては、主として化学的に合成された医薬品を対象に、その有効性、安全性、品質確保に必要な研究を行っている。富山県には、化学的に合成された医薬品を製造する製薬企業が多数集積していることから、医薬品製剤や品質管理の分野を中心に研究開発が盛んである。薬品部が富山県に移転した場合、このような県内の製薬企業にとって、高い技術を生かして付加価値を高めた新しい製品や、高度な品質管理に関する研究開発の実施に当たり、相談や共同研究を行いやすくなること期待される。これによって、このような付加価値の高い医薬品の開発・製造が促進され、富山県の医薬品産業がより振興することが期待される。  イ)国の機関としての機能確保 富山県は、東京、大阪、名古屋の3大都市圏からそれぞれ270km以内のところに所在し、いずれの大都市圏からもアクセスがしやすいバランスの取れた立地になっている。特に東京圏とは、平成27年3月に北陸新幹線が開業し、富山駅から東京駅まで最短2時間8分で結ばれるなど、交通の便が向上している。また、空路では富山市中心部から車で約15分という至近距離に富山きとと空港が所在し、羽田空港・千歳空港への国内線や、ソウル・上海等への国際線が就航しているほか、陸路では県内を北陸自動車道や東海北陸自動車道が走り、道路網も整備されている。海路でも、日本海側の総合的拠点港である伏木富山港が県内に所在している。 このように、陸海空に渡って国内・国外との交通網が整備されており、アクセスが良好であることから、要望した政府関係機関が富山県に移転した場合にも、これまでと変わらず、その機能を発揮することが期待できる。 また、富山県には、多数の製薬企業、「製剤開発・創薬研究支援ラボ」が設置されている富山県薬事研究所や寄附講座「製剤設計学講座」が設置されている富山大学に加えて、平成29年4月に全国初めての「医薬品工学科」を設置する予定である富山県立大学が所在していることから、これらの機関との連携により、首都圏に薬品部が所在するよりも効果的な研究開発を行えることが期待され、その成果を全国に普及することにより、日本全体にとっても多くのメリットが見込めると考える。</p>
<p>⑥ 誘致のための条件整備の案 ※少なくとも、以下のことについて、誘致自治体による協力のあり方を含めた条件整備の案を示してください。 ア 施設の確保等 移転先の施設の確保・設置のための具体的な条件整備の案を示すこと。  イ 職員の居住環境確保への協力 職員の居住環境の確保について、国又は独立行政法人等に協力すること。</p>	<p>ア)施設の確保等 移転後の県内関係機関との円滑な連携を確保する観点から、誘致機関の移転先として、県が所有している富山県薬事研究所の敷地内を考えている。本敷地には、空間的な余裕があることから、今後、移転機関の規模に応じて、新しい施設の整備により、必要な施設を確保したいと考えている。 なお、施設の確保等に当たっては、政府関係機関の地方移転が東京一極集中を是正する取組みとして実施されることに鑑み、移転先の施設確保や移転費用についても、国において必要な予算措置がなされることを要望する。  イ)職員の居住環境の確保への協力について 富山県は全国トップクラスの住みよい県として、極めて良好な居住環境が整っている。また、誘致予定地は、小中学校(中太閤山小学校、小杉南中学校)が近く、ショッピングセンターやスーパーマーケットも数百メートル内にあるなど、教育面・生活面においても非常に利便性の高い地域にある。 富山県薬事研究所の周辺においても個々の職員のニーズや家族形態に合う多様な住居が存在していることから、移転機関の職員の居住環境の確保に特段の支障はないものと考えているが、その確保に当たっては、国立医薬品食品衛生研究所に協力する。 なお、職員の居住環境確保に当たっては、政府関係機関の地方移転が東京一極集中を是正する取組みとして実施されることに鑑み、この確保に必要な費用等についても、国において必要な予算措置がなされることを要望する。</p>

<p>⑦ その他誘致に当たり解決すべき課題への対応策の案  ※上記の他、当該施設の誘致の提案にあたって、解決すべきと考えられる論点とそれへの対応策を記述してください。</p>	<p>国立医薬品食品衛生研究所は、その業務の遂行に当たり、厚生労働省等の関係行政機関と日々綿密な連携を図っている。また、そのやり取りの中には、高度なセキュリティに基づき取り扱うべき情報も含まれる。  そのため、国立医薬品食品衛生研究所薬品部の一部が富山県に移転した場合においても、厚生労働省等との円滑な連携を引き続き確保する必要がある。  この課題については、例えば、高度なセキュリティに対応した遠隔会議システムの設置などの設備の整備により解決できると考える。  なお、このような設備の整備に関して、政府関係機関の地方移転が東京一極集中を是正する取組みとして実施されることに鑑み、必要な費用等について、国において必要な予算措置がなされることを要望する。</p>
<p>⑧ 関係する市町村の意見等  ※当該誘致について、関係する市町村の意見等を記述してください。</p>	<p>射水市として、この誘致提案に全く異論がないことを確認した。誘致が実現すれば、射水市在住の学生等の就職先となり得ること、また、製薬業界への関心が強まり、県内製薬企業への就職希望が増大するなど、若い世代の人口の維持・増加につながり、地方創生が推進されることへの期待が寄せられた。</p>
<p>⑨ 道府県等の提案団体の担当課長</p>	
<p>職名・氏名</p>	<p>厚生部くすり政策課長・坂西義史</p>
<p>電話番号(直通)</p>	<p>076-444-3235</p>
<p>電子メールアドレス</p>	<p><a href="mailto:yoshifumi.banzai@pref.toyama.lg.jp">yoshifumi.banzai@pref.toyama.lg.jp</a></p>
<p>⑩ 道府県等の担当団体の担当者 ※今後、当事務局との連絡を担当する者を記入してください。</p>	
<p>職名・氏名</p>	<p>厚生部くすり政策課振興開発班長・仁木良市</p>
<p>電話番号(直通)</p>	<p>076-444-8749</p>
<p>電子メールアドレス</p>	<p><a href="mailto:rvoichi.niki@pref.toyama.lg.jp">rvoichi.niki@pref.toyama.lg.jp</a></p>



## II 基本的な考え方

### 1 戦略策定のポイント

#### （5）先駆的な富山モデルをさらに磨き上げ

また、「くすりの富山」の特徴を活かした医薬品生産拠点づくりや最先端ものづくり産業クラスターの形成、平成26年10月に「世界で最も美しい湾クラブ」への加盟が認められた「世界で最も美しい富山湾」のブランド活用など、富山ならではの特色あふれる先駆的事業をさらに拡充します。

## IV 具体的な施策

### 【基本目標2】雇用の創出、産業振興、県外からの移住促進

#### 1 若者や女性がいいきと働き暮らせる魅力ある地域づくり

##### （ア）企業立地等の促進

##### ④政府関係機関等移転の促進

○東京一極集中を是正し、本県への「ひと」の流れを加速するため、政府関係機関の地方移転に係る提案募集に関して、本県の地方創生に資する機関の誘致への取り組み

○誘致に当たっては、本県が強みを持つ医薬品関連などの分野を念頭に置いて検討

#### 3 産業・地域経済の活性化

##### （ア）富山の強みを活かした成長産業の育成

##### ①「薬都とやま」の産業集積を活かしたライフイノベーションの推進

○本県の強みである高いものづくり技術や産業集積を活かして、医薬・バイオなどの健康関連産業への本県企業の参入を促進

##### ◆重要業績評価指標（KPI）：

医薬品生産金額（厚生労働省 薬事工業生産動態統計調査）

[現状（H25）]6,089億円 → [目標（H33）]7,500億円

バイオ関連商品の年間売上高（富山県庁商工企画課まとめ）

[現状（H26）]156.5億円 → [目標（H33）]190億円

※医薬品研究成果を活かした実用化支援を検討

（具体的な事業）

- ・ 医薬バイオ地域イノベーション戦略推進事業（H27当初・商労）
- ・ 富山大学連携地域イノベーション推進事業（H26.2月補正・商労）
- ・ 世界の薬都連携チャレンジ事業（H27当初・厚生）
- ・ 医薬工連携促進事業（H27当初・商労）
- ・ 医薬工連携ネットワーク事業（H27当初・商労）

# 国立医薬品食品衛生研究所 薬品部の移転提案について

## 背景

- ・富山県には製薬企業やその周辺産業の企業が多数集積し、全国有数の医薬品生産拠点になっている。
- ・富山県の医薬品産業がさらに発展していくためには、高い技術を生かして付加価値を高めた新しい製品の開発促進と、国内のみならず海外の市場にも目を向け、海外新興国等の医薬品需要の増加を取り込むことが必要。

## 目的

- ・東京の一極集中を是正するため、地方それぞれの地域資源や産業事情を踏まえて、地方における「しごと」と「ひと」の好循環を促進する。
- ・富山県は、300年以上の歴史を持つ「配置薬」の伝統から続く、医薬品産業の集積地であり、その特色を生かして、地方創生に取り組む。

### 国立医薬品食品衛生研究所

- ・医薬品や食品のほか、生活環境中に存在する多くの化学物質について、その品質、安全性及び有効性を正しく評価するための試験・研究や調査を実施
- ・東京都世田谷区に所在(平成28年度中に川崎市に移転予定)

(富山に誘致する理由)

- ・県内製薬企業等との連携促進により、研究開発が活性化し、県内はもちろん、日本全体の研究開発の活性化に資することが期待される。

### 薬品部

「くすりの富山」に誘致

東京一極集中是正の観点も踏まえて、薬品部を国内有数の医薬品製造拠点である富山県に移転

化学物質を有効成分とする医薬品の品質・有効性・安全性の確保に関する研究を実施している。

(担当業務)

- ・医薬品の製剤評価、品質規格に関する研究
- ・医薬品の品質管理、新剤形に関する研究 等



共同研究等  
による連携

### 富山県薬事研究所

都道府県で唯一の薬事の研究機関。研究及び技術支援等の基盤あり

### 富山大学・富山県立大学

薬学部をはじめ、医学部・工学部等で医薬品や製剤関係の研究を実施中

### 富山県の医薬品企業

化学物質を有効成分とする医薬品の工場・技術者・研究者が集積



「くすりの富山」の国際的な医薬品製造拠点化を図り、日本の医薬品産業をより海外で稼げる産業にする

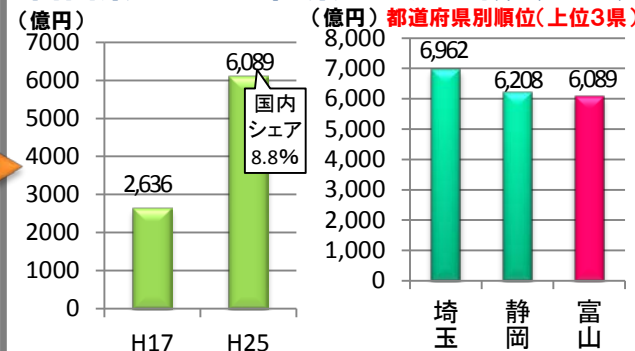
# (参考) 国内有数の製剤技術の拠点「くすりの富山」

## 医薬品生産拠点として発展し続けている富山県

- ◇ 新薬開発型、特殊剤型、ジェネリック、配置薬など100超の工場が集積
- ◇ 国内有数の医薬品生産拠点 都道府県別生産金額 H25年 6,089億円(3位)
- ◇ 活発な設備投資・・・平成26年以降も 900億円を超える投資予定
- ◇ 製剤技術の向上のため、産学官が連携

H17~25投資額 約1,500億円

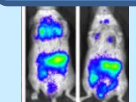
## 富山県における医薬品生産金額 (H25)



## 全国唯一の公設薬事研究所

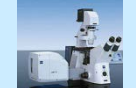
- ・富山県薬事研究所に、「製剤開発・創薬研究支援ラボ」を整備し、県内メーカーの研究開発や薬学部生等の人材育成を支援

### 創薬研究



In vivo イメージング装置

「薬物の体内分布を観察する装置」  
マウスに投与した薬物の体内分布を解析し、薬剤の動きを検証



共焦点レーザー顕微鏡

「薬物の作用を細胞レベルで観察する装置」  
薬物投与により増加する細胞の種類や機能変化を解析

### 製剤開発



味覚試験装置 (味覚センサー)

「医薬品等の味を数値化し、解析する装置」  
苦みの強い薬物のマスキング効果を評価し、飲みやすい製剤開発に活用



レーザー回折式粒子径分布測定装置

「医薬品原料や顆粒剤等の粒子径分布を測定・解析する装置」  
原料や試作した顆粒剤等の大きさや形状を評価。軟膏・クリーム剤など製剤開発に活用

## 製剤技術を支える県内大学

### 富山大学大学院 医学薬学研究部

- ・平成27年度より、製剤技術等を専門とする寄附講座「製剤設計学講座」を設置



国内最大級のジェネリック医薬品メーカー日医工(株)が協力

### 富山大学大学院 理工学教育部

- ・修士課程の学生向けの「ファーマ・メディカルエンジニア養成コース」において、製剤技術を含む高度な医療系技術人材を育成

### 富山大学 産学連携部門

- ・社会人向けの「次世代スーパーエンジニア養成コース」において、県内製薬業界と連携して、製薬企業の技術力向上等を支える実践的な次世代技術者を育成

## 技術力に優れた県内企業

- ・経皮吸収型製剤の有効性を立証。消炎鎮痛剤のテープ剤が好調

リードケミカル(株)



- ・DPI(経肺・経鼻粉末吸入) 製剤専用工場など多様な剤型を製造

東亜薬品(株)

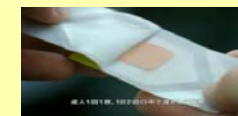


- ・パップ剤、点眼剤(世界初最新型ロボットシステム導入)等の技術が集積

テイカ製薬(株)

- ・水なし服用できる口腔内フィルム製剤を開発

救急薬品工業(株)



- ・ゲル状の基剤を噴霧する鼻腔内投与型製剤で注目

東興薬品工業(株)

別紙様式 地方創生に資すると考えられる政府関係機関の地方移転に係る提案

※記入にあたっては、「政府関係機関の地方移転に係る道府県等の提案募集要綱」(別添1)を参照してください。また、適宜、参考資料を添付してください。

① 道府県等の提案団体の名称	富山県						
② 関係市町村の名称	富山市						
③ 誘致を希望する政府関係機関の名称 ※まとまりのある一部分の組織・機能の移転や地方拠点の設置を希望する場合はそのことが明確に分かるよう記載してください。	総務省消防庁 消防大学校消防研究センター 火災災害調査部						
④ 誘致先の予定地 ※住所、面積、交通アクセス等当該予定地の現況を記載してください。	富山県富山市惣在寺1090-1 富山県広域消防防災センター敷地内 敷地面積 42,095平方メートル 既存の建物 12,730平方メートル						
⑤ 誘致の必要性・効果 ※以下のア、イの内容について必ず記載してください。 ア 地方版総合戦略の重要な要素であること。 当該地方公共団体の総合戦略の重要な要素と、誘致する機関の業務・機能が密接に関連し、総合戦略の目標達成にとって当該機関の移転が重要な要因となるものであること。また、例えば研究機関の移転であれば、特定分野の産学官の研究集積又は当該分野の関係産業の集積がなされている等、現状において一定の強みを持つものであること。(併せて地方版総合戦略の案の該当部分を参考資料として添付してください。) イ 国の機関としての機能確保 当該機関が現在地から当該道府県に移転することにより、国の機関としての機能が確保でき、運用いかによってはむしろ向上することが期待できること。(例えば、移転により当該道府県以外の道府県の利便性が悪化し、国全体としての機能が低下しないか、移転により現在機能が集積していることの強み・メリットを損なうことにならないか等の問題点があったとしても、それを上回るだけの移転のメリットがあるか、など。)	ア)富山県における日本一の安全・安心な県づくりへの貢献と総合戦略における位置づけ 富山県は、比較的、災害が少ない県と言われているが、中でも、出火率は、24年連続、全国最小となっている。 また、平成24年4月から、広域消防防災センターを開設し、日本一高い45mの主訓練塔や日本一の深さを持つ10mの可変底式の潜水プール、可動式の家屋等や様々な火災原因が実証できる実火災訓練施設を備えるとともに、地震、火災、風水害、雪害などの体験学習ができる四季防災館を併設しており、県政の重要方針として、安全・安心な県づくりに取り組んでいる。 今後とも、日本一安全・安心な県づくりを進めることとしており、富山県版総合戦略「とやまの未来創生戦略(仮称)」の基本目標4「地域の基盤強化・魅力向上」に、「健康でともに支えあい安心して暮らせる社会の形成」を基本的方向として位置づけている。 このようなことから、消防大学校消防研究センター火災災害調査部の移転により、より一層、全国のモデル的な火災予防の先進県として、全国に貢献できる。 イ)国の機関としての機能確保と移転により期待できる国全体への効果 広域消防防災センターの全国トップクラスの訓練施設を利用して、神奈川県や愛知県などの消防機関が訓練等に活用しており、高度な能力を持つ消防人材の育成に大きく寄与している。また、救急自動車の到着時間(6.9分)、収容時間(29.9分)が全国最短であり、本県の消防防災体制は全国トップクラスレベルに充実している。 消防研究センターは、火災や特殊環境下における災害に対する安全性を向上させるための研究を行っており、このうち火災災害調査部は、消防庁長官による火災原因調査及び危険物流出等の事故原因調査に関する業務を行っている。 参考(消防研究センター職員数 26名(定数)うち火災災害調査部門 10名)  本県は、出火率が24年連続最少であることや原因調査のための全国トップクラスの実火災訓練施設を保有していることから、次のとおり、全国の消防機関への貢献が期待でき、国民の生命・身体・財産の保護の向上が図れる。  ①本県における火災の少ない背景・要因と火災原因調査による総合的な火災予防対策の向上 ・本県のH26出火率 2.01 全国平均 3.41 ・火災原因調査(長官検査、消防機関からの依頼等)年間 約100件程度  ②東京や太平洋側ではできない、本県特有の降雪、局地風、林野などの特殊地域環境下での火災原因調査能力の向上						
⑥ 誘致のための条件整備の案 ※少なくとも、以下のことについて、誘致自治体による協力のあり方を含めた条件整備の案を示してください。 ア 施設の確保等 移転先の施設の確保・設置のための具体的な条件整備の案を示すこと。 イ 職員の居住環境確保への協力 職員の居住環境の確保について、国又は独立行政法人等に協力すること。	ア)施設の確保等 広域消防防災センターの敷地内42,095平方メートルに、執務施設(10人程度)や資機材をおくスペースの新増設は可能である。 なお、すでに火災災害調査部が使用している消防研究センターの建築防火研究棟は、本県の実火災訓練棟の活用で可能である。 イ)職員の居住環境の確保への協力 富山県は全国トップクラスの住みよい県として、極めて良好な居住環境が整っている。 誘致予定地は、市街地から車で15分程度であり、小中学校が近く、近隣にショッピングセンターなどもあり、教育面、生活面においても利便性の高い地域である。 移転機関の職員の居住先確保には特段の支障はないものと思われるが、その確保には協力したい。						
⑦ その他誘致に当たり解決すべき課題への対応策の案 ※上記の他、当該施設の誘致の提案にあたって、解決すべきと考えられる論点とそれへの対応策を記述してください。	ア)関係機関の理解 消防大学校消防研究センターは、その業務の遂行にあたり、総務省消防庁ほか、全国の消防機関、消防長会、全国危険物安全協会連合会、日本消防協会、日本消防検定協会などの消防関係団体と密接な連携が必要であり、理解を得る必要がある。 イ)セキュリティの確保、火災災害原因調査のための資機材の確保 火災原因調査は高度なセキュリティに基づき行われる情報もあることから、富山県へ移転した場合でも、消防庁、消防大学校消防研究センターとの円滑な連携が必要である。また、調査のための資機材の配備も求めていく必要がある。						
⑧ 関係する市町村の意見等 ※当該誘致について、関係する市町村の意見等を記述してください。	富山市へは事前に説明済み						
⑨ 道府県等の提案団体の担当課長	<table border="1"> <tr> <td>職名・氏名</td> <td>知事政策局消防課長 岡本達也</td> </tr> <tr> <td>電話番号(直通)</td> <td>076-444-4590</td> </tr> <tr> <td>電子メールアドレス</td> <td>tatsuya.okamoto@pref.toyama.lg.jp</td> </tr> </table>	職名・氏名	知事政策局消防課長 岡本達也	電話番号(直通)	076-444-4590	電子メールアドレス	tatsuya.okamoto@pref.toyama.lg.jp
職名・氏名	知事政策局消防課長 岡本達也						
電話番号(直通)	076-444-4590						
電子メールアドレス	tatsuya.okamoto@pref.toyama.lg.jp						
⑩ 道府県等の担当団体の担当者 ※今後、当事務局との連絡を担当する者を記入してください。	<table border="1"> <tr> <td>職名・氏名</td> <td>知事政策局消防課 予防係長 田中 博</td> </tr> <tr> <td>電話番号(直通)</td> <td>076-444-4074</td> </tr> <tr> <td>電子メールアドレス</td> <td>hiroshi.tanaka@pref.toyama.lg.jp</td> </tr> </table>	職名・氏名	知事政策局消防課 予防係長 田中 博	電話番号(直通)	076-444-4074	電子メールアドレス	hiroshi.tanaka@pref.toyama.lg.jp
職名・氏名	知事政策局消防課 予防係長 田中 博						
電話番号(直通)	076-444-4074						
電子メールアドレス	hiroshi.tanaka@pref.toyama.lg.jp						



#### IV 具体的な施策

##### 【基本目標4】地域の基盤強化・魅力向上

##### 2 健康でともに支えあい安心して暮らせる社会の形成

##### (エ) 安全・安心の確保

##### ③地域防災力の向上

- 実践的な防災訓練等を通じて県民の防災意識の向上や、地震・津波等の災害時に適切に対応できる人材育成を推進し、地域の防災・減災力の向上を図る
- 自主防災組織の結成促進と活動の充実を図るとともに、自主防災組織と消防団員や消防本部、学校等との連携を強化し、地域防災力の向上を図る

◆重要業績評価指標（KPI）：

自主防災組織の組織率

[現状（H26）75%] → [目標（H31）80%]

（具体的な事業）

- ・津波災害避難訓練モデル支援事業（H27 当初・知政）
- ・自主防災組織資機材整備事業（H27 当初・知政）
- ・広域消防防災センター運営費（H27 当初・知政）

##### ④公共施設等の耐震化や避難場所・避難路の整備、防災拠点機能・物資輸送拠点の充実など災害に強いまちづくり

- 学校、住宅、病院、警察署、公共土木施設等の耐震化をはじめとした地震に強い県土・まちづくりを図るなど、防災・減災力を向上
- 災害時の避難場所・避難路の整備、防災拠点機能や物資輸送拠点機能の充実を図るなど、災害に備えたまちづくりを推進

◆重要業績評価指標（KPI）：

住宅の耐震化率

[現状（H20）]68% → [目標（H31）]82%

（具体的な事業）

- ・富山県木造住宅耐震診断支援事業[再掲]（H27 当初・土木）
- ・広域消防防災センター運営費[再掲]（H27 当初・知政）
- ・災害時医療体制整備事業（H27 当初・厚生）

# 災害に強い「日本一の安全・安心県」の富山に移転を求める政府機関の提案

「火災・危険物流出事故の原因調査の実施と支援により安全で安心できる社会づくりに貢献する」

## 総務省 消防庁消防大学校消防研究センターの一部

### 火災災害調査部門

- 消防研究センターは、火災や特殊環境下における災害に対する安全性を向上させるための研究を行っており、このうち火災災害調査部は、消防庁長官による火災原因調査及び危険物流出等の事故原因調査に関する業務を行っている。 【消防研究センター職員数 26名(定数) うち火災災害調査部門 10名】

(沿革)

昭和23年	消防研究所設置（消防庁局内）
平成13年4月	独立行政法人消防研究所となる。
平成14年4月	火災原因調査室を置く。
平成18年4月	独立行政法人消防研究所を廃止 消防大学校に設置 火災災害調査部を設置

- ①原因調査の実施状況（17年度～25年度）

長官調査	（主体）	9件	
〃	（委託）	8件	
消研	（依頼）	653件	
〃	（自主）	45件	計715件
- ②各種研修会  
東京・地方5～6会場

## 富山県広域消防防災センター

- 本県は、出火率が24年連続日本一であることや原因調査のための全国トップクラスの実火災訓練施設を保有していることから全国の消防機関への貢献が期待でき、国民の生命、身体、財産の保護の向上が図れる。
- ①本県における火災の少ない背景・要因と火災原因調査による総合的な火災予防対策の向上
- ②東京ではできない、本県特有の降雪、局地風、林野などの特殊地域環境下での火災原因調査能力の向上





# 富山県広域消防防災センター 富山県消防学校

# 管理棟（消防学校教育棟）・宿泊棟

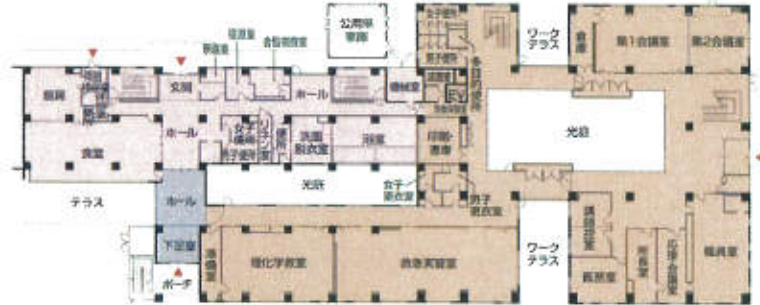
1F



第1会議室 (50人収容)



食堂 (60人収容)



理化学教室



救急実習室



浴室

2F・3F



普通教室



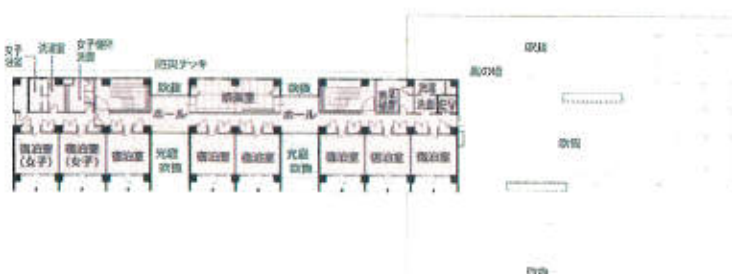
講堂兼大教室 (120人収容)



図書・自習室



宿泊室 (4人部屋・15室)

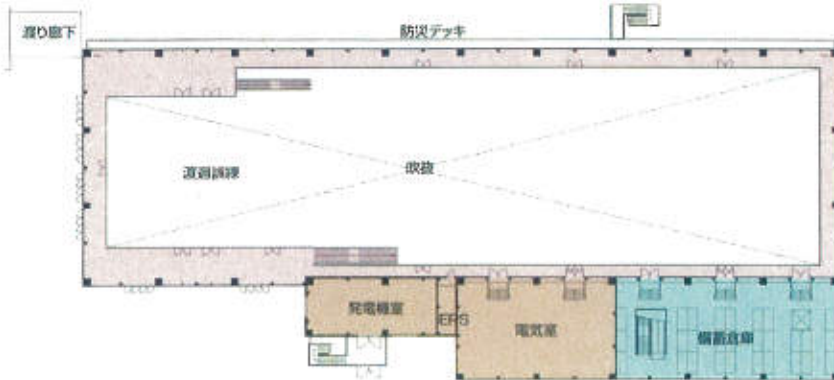


女性専用エリア



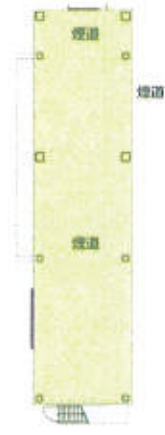
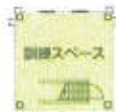
## 屋内訓練棟

屋内訓練スペース  
 ・屋内放水訓練が可能  
 ・2階デッキでの渡過訓練  
 ・降下訓練可能



備蓄倉庫  
 ・大規模災害対応の資機材・食料を備蓄

## 補助訓練棟



渡過訓練スペース



引揚救助訓練スペース



障害突破訓練スペース

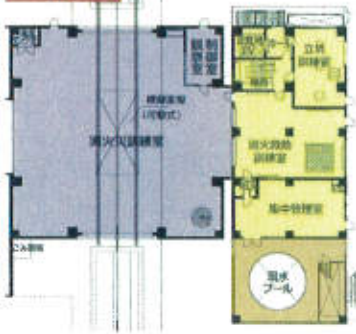


高所（地上30m）降下・渡過訓練スペース

- 屋内訓練施設
- 実火災訓練施設
- 主訓練塔
- 補助訓練棟
- 水難救助訓練施設
- 備蓄倉庫
- 電気室・発電機室

# 主訓練塔・実火災訓練棟

1F

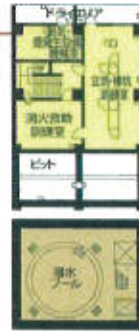


**実火災訓練室**  
・家屋の模型（可動式）を使用した消火訓練可能



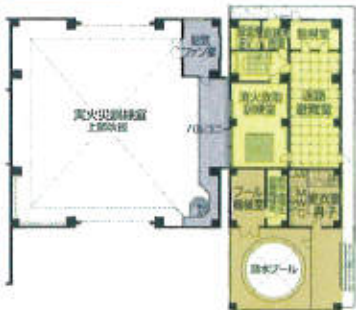
**消火救助訓練室**  
・木材や油の炎を用いて行う消火訓練可能

B1F



**立坑・横坑訓練室**  
・地下水没訓練（水深 1.2m）可能  
・立坑・横坑救助訓練可能

2F



**迷路避難室**  
・可動間仕切りによる迷路避難訓練が可能

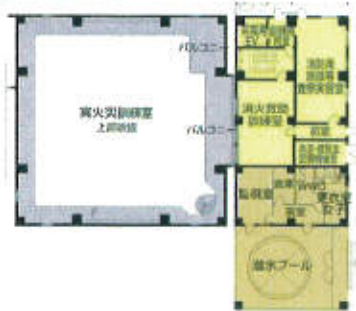
5F



6F

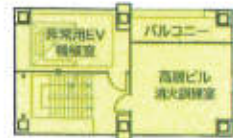


3F

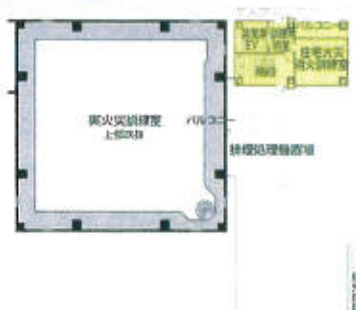


**水難救助訓練施設**  
・潜水プール（水深 10m）水深可動型  
・気泡発生装置による溺水訓練対応

7F

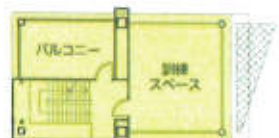


4F



**主訓練塔**  
・高階層への消火訓練、はしご車架梯訓練可能

8F~13F





# 災害時には、災害対策の拠点として機能します。

- ・建物本体、設備には大地震にも十分耐えられる耐震設計(重要度係数 $I=1.5$ )を行っています。
- ・停電に備え、3日間連続運転ができる自家発電設備を設置しています。
- ・断水に備え、井戸の設置や飲料水、トイレの洗浄水を確保できる耐震性貯水槽を設置しています。

## 耐震性貯水槽

飲用に適した水を常時100t貯水。

## 管理棟(消防学校教育棟)

2,330m<sup>2</sup>

県内の防災機関及び県外からの広域応援活動委員・災害ボランティア等の活動拠点となります。

## 四季防災館

・体験型学習施設

## 屋外訓練場

10,000m<sup>2</sup>

## 放水訓練場 ヘリポート

人員や物資等を緊急に搬送する必要がある時にヘリコプターが発着できます。

## 座屈・倒壊家屋 救助訓練スペース



## 宿泊棟(定員60名)

1,635m<sup>2</sup>

防災活動委員の宿泊・食事・入浴等の施設となります。

## 屋内訓練棟

2,000m<sup>2</sup>

県内外からの支援物資を受け入れ、被災各地へと送り出します。

## 備蓄倉庫

600m<sup>2</sup>

収納されている救助資機材等を災害対策要員に貸出します。

## 実火災訓練棟

2,330m<sup>2</sup>

・実火による消火訓練室



## 転落救助訓練施設

## 主訓練塔

H=45m、2,330m<sup>2</sup>

・濃煙・熱気発生装置による訓練室

## 補助訓練棟

H=32m、1,065m<sup>2</sup>

・救助訓練



## 街区訓練スペース



## ■ 校訓

- 一 職責の自覚
- 一 規律の厳正
- 一 知識、技能の習得、練磨
- 一 体力、気力の練成
- 一 行動の敏速

## ■ 施設の規模等

- ・所在地 富山市惣在寺 1090-1
- ・敷地面積 約 4.2ha
- ・構造 鉄筋コンクリート 3 階建（一部 2 階建）
- ・延床面積 12,730 m<sup>2</sup>
- ・建物機能
  - 管理棟（消防学校教育棟）
  - 宿泊棟（定員 60 名）
  - 訓練施設（屋内訓練場、主訓練塔、補助訓練棟、水難救助訓練施設、実火災訓練棟等）
  - 防災拠点施設
  - 四季防災館（体験型学習施設）、備蓄倉庫等
- ・総工費 約 45 億円



〒939-8241 富山市惣在寺1090-1 TEL. 076-429-9912 / FAX. 076-429-9913







富山防災シアター



・25人程度が着席して映像の視聴などが行える多目的空間です。

119番通報体験



・事故、災害等の119番通報を、映像を見ながら体験できます。  
・携帯電話、固定電話、公衆電話による通報体験が可能です。

高齢者等助け合い体験



・災害時に要援護者となりやすい、高齢者、障害者等に対する支援活動について体験を通して学習できます。

立山の雄大な景観



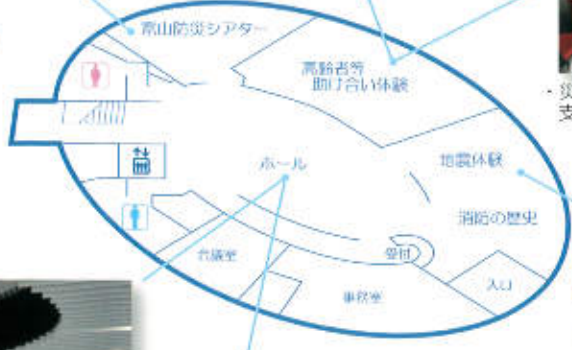
・立山の雄大な姿を一望できます。

山地災害と山岳救助



・消防防災ヘリ「とやま」を紹介しています。

1F



シンボル映像



・吹き抜け空間に、大型の映像システムが配置され、本施設のシンボル映像が展開します。  
・富山の四季をイメージさせる美しい環境映像です。

富山の四季と地形



・富山県の地形模型と映像を組み合わせ、富山特有の災害が四季の気候と地形に由来することをダイナミックに表現しています。

地震体験



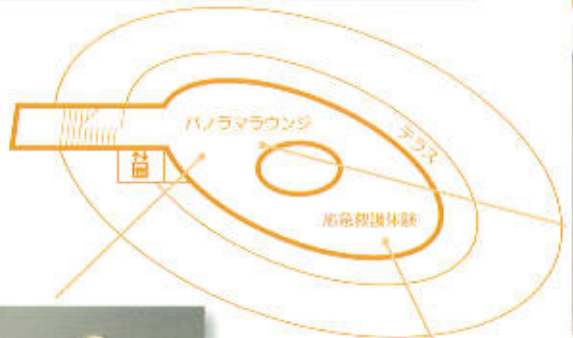
・地震の揺れを3次元に動く震動装置でリアルに体験できます。  
・震度や加速度等のデータおよび地震波の波形が表示されます。

パノラマ・ラウンジ



・立山を一望できる空間が開放され、休憩や来館者同士のコミュニケーションを図る場として活用できます。  
・自主防災組織の屋上訓練、子どもたちの防災ゲームなどのワークショップ、多様なイベントが予定されています。

3F



応急救護体験



・訓練用的人形、AED等を使って、心肺蘇生、やけどや骨折時の応急処置などが体験できます。  
・希望される場合は、事前にお問い合わせください。

初期消火体験



・映像スクリーンの火災に向けて放水。正しく放水を続けると映像が変化して消火が成功します。  
・正しい消火行動を学ぶことができます。

煙体験



・ホテルなど居室での火災発生を想定し、非常ベルが鳴るなどの演出を交えて、煙の中を避難する体験ができます。

秋

富山と雪 - 過去・現在・未来 -



・雪害の種類、特徴、雪下ろし時の事故対策、利雪の取組みについて紹介しています。

寄り回り波



・富山湾特有の高波「寄り回り波」が引き起こす災害の恐ろしさを、人型映像システムを用いて迫力ある映像で展開しています。

冬

水害と治水の歴史



・富山県の歴史は水害と治水の歴史といっても過言ではなく、その苦難の歴史を年表と写真でとります。

風雨災害体験



・室内で豪雨と暴風を体験できます。両方の同時体験も可能です。

夏

流水体験



・15cm、30cm、45cmの水深の中を歩く体験です。  
・水深によって歩きづらさが変わります。

2F

四季防災館のご案内

四季防災館は、災害を四季という自然のサイクルの中でとらえ、克服に向けた先人たちの努力を学ぶことができる、体験型学習施設です。

強風災害



・富山県内の局地風（井波風、あいの風など）の特徴等を解説し、被害防止のための心得を紹介しています。

春

雪崩体験



・雪崩現象を模擬的に再現する装置で、雪崩の発生の様子を紹介しています。



別紙様式 地方創生に資すると考えられる政府関係機関の地方移転に係る提案

※記入にあたっては、「政府関係機関の地方移転に係る道府県等の提案募集要綱」(別添1)を参照してください。また、適宜、参考資料を添付してください。

① 道府県等の提案団体の名称	富山県
② 関係市町村の名称	富山市
③ 誘致を希望する政府関係機関の名称 ※まとまりのある一部分の組織・機能の移転や地方拠点の設置を希望する場合はそのことが明確に分かるよう記載してください。	独立行政法人教員研修センター ※上記で実施している ①小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修 ②英語教育海外派遣研修 ③キャリア教育指導者養成研修 について、本県での開催を希望 (研修に合わせて所要の人員を本県に配置(センターから移転))
④ 誘致先の予定地 ※住所、面積、交通アクセス等当該予定地の現況を記載してください。	名称 「高志会館」(公立学校共済組合施設) 住所 富山市千歳町1-3-1 面積 土地:5,343㎡、延床:9,065㎡ アクセス 富山駅正面より徒歩10分 宿泊定員 58名
⑤ 誘致の必要性・効果 ※以下のア、イの内容について必ず記載してください。 ア 地方版総合戦略の重要な要素であること。 当該地方公共団体の総合戦略の重要な要素と、誘致する機関の業務・機能とが密接に関連し、総合戦略の目標達成にとって当該機関の移転が重要な要因となるものであること。また、例えば研究機関の移転であれば、特定分野の産学官の研究集積又は当該分野の関係産業の集積がなされている等、現状において一定の強みを持つものであること。(併せて地方版総合戦略の案の該当部分を参考資料として添付してください。) イ 国の機関としての機能確保 当該機関が現在地から当該道府県に移転することにより、国の機関としての機能が確保でき、運用いかによってはむしろ向上することが期待できること。(例えば、移転により当該道府県以外の道府県の利便性が悪化し、国全体としての機能が低下しないか、移転により現在機能が集積していることの強み・メリットを損なうことにならないか等の問題点があったとしても、それを上回るだけの移転のメリットがあるか、など。)	ア 地方版総合戦略の重要な要素であること <富山県における教育の取組み> 富山県では、120年を超える歴史を持つ富山県教育会や、その伝統を受け継ぎ、戦後、教員の自主的な研究組織として設立された小学校教育研究会、中学校教育研究会、高等学校教育研究会などの教育関係団体は現職教員のほぼ全員が加入し、永年にわたり「授業研究」「教材研究」などの実践研究を積み重ねてきており、教育熱心な県民、勤勉な教員と、こうした全国に誇りうる優れた教育実践の取組みは、「教育県」として高く評価されてきている。 近年では、少子高齢化やグローバル化などの時代の大きな変化の中にあつて、今日的な教育課題に適切に対応し教育の振興を図るため、早くから少人数教育の導入に取組んできたほか、ふるさと教育をはじめとした特色ある取組みや環境整備など富山ならではの質の高い取組みである「富山スタンダード」の推進に努めてきている。これらの継続的な取組みにより、全国学力調査では、本県の平均正答率が全国上位に位置づけられている。 <富山県の教育力向上に関する取組みの地方版総合戦略における位置づけとこれまでの取組み> 富山県では、今後の人口減少の見込みを踏まえ、本県の豊かな自然環境、ものづくり産業をはじめとする地域産業、ふるさと富山の歴史や文化などの特性を活かし、県民一人一人が安心安全で心豊かな生活を送ることができている地域社会の構築を目指している。 特に、社会や経済のグローバル化が急速に進展するなか、探究力や自ら課題を解決する能力を備え、積極的にコミュニケーションを図り、世界を舞台に活躍できる人材の育成を図ることが求められており、本県の地方版総合戦略である「とやまの未来創生戦略(仮称)」において、地域の基盤強化・魅力の向上のための重要な柱として、「地域を担うひとづくり」を掲げ、「グローバルに活躍する人材の育成」や「社会で活躍の実践的な力の育成」に努めていくこととしている。 (1) 英語教育の本県での取組み等 これまで、小学校では、全国に先駆けて平成26年に小学校4校に英語担当の専科教員を配置して外国語活動の充実に努めてきており、平成27年には小学校20校に配置し英語教育モデル事業に取組んでいるほか、高校生の海外留学への支援や海外の学校との交流事業の実施、活発な英語研修会の開催や教員採用試験において英語資格の加点制度の導入を図るなど、世界で活躍するグローバルな人材の育成に取組んできている。また、ふるさと富山を題材にした郷土史・日本史学習補助教材や英語教材活用など、日本や郷土の歴史・文化の特色を理解し、世界に向けて発信できる力を育成している。 小学校高学年における英語教育の教科化などを見据え、英語指導教員の指導力の向上を図るため、これまで小学校教員や公立中学校・高校の英語担当教員を対象とした研修会を手厚く開催してきており、この結果、公立中学校・高校の英語担当教員のうち、「英検準1級以上等」を取得している教員の割合は、中学校で48.0%、高校で79.9%、合計62.4%と、都道府県別の取得率では、中学校は全国第2位、高校は全国第3位、全体では全国第2位となるなど、英語力の高い担当教員を育成してきている。 (2) キャリア教育の本県での取組み等 キャリア教育については、一人一人の児童生徒が人間としての在り方、生き方を考え、働く意義や職業の選択など、自らの進路についてしっかりと考えた考えをもち、主体的に将来の職業選択ができるよう、その充実に努めてきている。 県内公立中学校では、健全な職業観や社会性を育むために「社会に学ぶ14歳の挑戦」や「職業調べ」、「先輩に学ぶ講演会」などを実施している。「社会に学ぶ14歳の挑戦」は中学校2年生が連続した5日間職場体験を行うものであり、全国に先駆けて平成11年度から実施し、13年度から全ての公立中学校で実施している。学校と地域住民、企業等が密接に連携協力し、積極的に社会に貢献し、職業人に求められる職業観や勤労観、倫理観の育成につなげている。 高校においても、各学科や学校の実態に応じ、地元企業などの協力を得てインターンシップを実施しているほか、外部講師による進路講話など、継続的なキャリア教育を展開しており、生徒一人一人がそれぞれの将来像を描きながら、主体的に進路を決定する能力や態度を育成している。 学校基本調査における高校卒業者に占める進学者と就職者の合計の割合(進路決定率:本県独自指標)は、平成27年3月高校卒業者については98.5%であり、10年以上連続して全国第1位になっており、高校における進路選択への取り組みが効果を発揮している。 また、高卒就職者の3年以内の早期離職率は、平成23年3月高卒者については、31.4%であり、全国平均を8ポイント以上下回るなど、キャリア教育の成果が現れている。 (以上のとおり、これまでの本県における英語教育やキャリア教育の特色ある取組みに合わせて、(独)教員研修センターが実施する研修を本県で実施することにより、本県教育はもとより、他県からの受講者にとっても、地域の実情に応じたそれぞれの分野での指導力の向上が期待される。 イ 国の機関としての機能確保 富山県は、東京、大阪、名古屋の3大都市圏からそれぞれ270km以内のところに所在し、いずれの大都市圏からもアクセスがしやすいバランスの取れた立地になっている。特に東京圏とは、平成27年3月に北陸新幹線が開業し、富山駅から東京駅まで最短2時間8分で結ばれるなど、交通の便が向上している。また、空路では富山市中心部から車で約15分という至近距離に富山きととき空港が所在し、羽田空港・千歳空港への国内線や、ソウル・上海等への国際線が就航しているほか、陸路では県内を北陸自動車道や東海北陸自動車道が走り、道路網も整備されている。 研修予定施設としては、富山市の玄関口である富山駅近くの施設の活用(高志会館)を検討しており、利便性の高い場所での研修を行うことが可能である。 こうした教育研修の地方での実施は、例えば県内の学校の授業と連携したメニューを盛り込むことなどにより、地域の教育現場の実情等に即した、実践的かつ効果的な研修が期待できる。 また、対象としている英語教育関係研修及びキャリア教育指導者研修は、つくばで実施されるその他の研修と会場を別にした場合であっても、関連性を損なったり、特段の支障を生じるものではないと考えられる。



<p><b>⑥ 誘致のための条件整備の案</b>  ※少なくとも、以下のことについて、誘致自治体による協力のあり方を含めた条件整備の案を示してください。</p> <p>ア 施設の確保等  移転先の施設の確保・設置のための具体的な条件整備の案を示すこと。</p> <p>イ 職員の居住環境確保への協力  職員の居住環境の確保について、国又は独立行政法人等に協力すること。</p>	<p>ア 施設の確保等  研修施設としては、富山市の玄関口である富山駅近くに立地する公立学校共済組合富山県支部が運営する高志会館を予定している。当該施設は、約300名取容のホールや、人数に合わせて分割ができる研修室(最大13室、約400名)を有しており、研修会場または事務局としては、十分な施設機能を備えている。また、当該施設では、定員約60名の宿泊施設を有しているが、不足する宿泊人数については、至近距離にある民間ホテル等の活用が可能である。</p> <p>イ 職員の居住環境確保への協力  富山県は全国トップクラスの住みよい県として、極めて良好な居住環境が整っている。特に、富山市内においては、個々の職員のニーズや家族形態に応じた多様な住居が存在していることから、移転に伴う職員の住居環境の確保には、特段の支障はないものと考えている。</p>
<p><b>⑦ その他誘致に当たり解決すべき課題への対応策の案</b>  ※上記の他、当該施設の誘致の提案にあたって、解決すべきと考えられる論点とそれへの対応策を記述してください。</p>	
<p><b>⑧ 関係する市町村の意見等</b>  ※当該誘致について、関係する市町村の意見等を記述してください。</p>	<p>予定している研修施設は、上記⑥で記載したとおり、公立学校共済組合施設である高志会館を予定しており、地元市としての負担はない。</p>
<p><b>⑨ 道府県等の提案団体の担当課長</b></p>	
<p>職名・氏名</p>	<p>参事・教育企画課長 山下 康二</p>
<p>電話番号(直通)</p>	<p>076-444-3428</p>
<p>電子メールアドレス</p>	<p><a href="mailto:yasui.yamashita@pref.toyama.lg.jp">yasui.yamashita@pref.toyama.lg.jp</a></p>
<p><b>⑩ 道府県等の担当団体の担当者</b> ※今後、当事務局との連絡を担当する者を記入してください。</p>	
<p>職名・氏名</p>	<p>主任・池内 政晴</p>
<p>電話番号(直通)</p>	<p>076-444-3430</p>
<p>電子メールアドレス</p>	<p><a href="mailto:masaharu.ikeuchi@pref.toyama.lg.jp">masaharu.ikeuchi@pref.toyama.lg.jp</a></p>

#### IV 具体的な施策

##### 【基本目標4】地域の基盤強化・魅力向上

##### 3 地域を担う人づくり

##### (ア) 教育力の向上

##### ③県民みんなで育てる教育の推進

○学校・家庭・地域等が連携し、それぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子どもを育む教育環境づくりを推進

##### ◆重要業績評価指標（KPI）：

14歳の挑戦（中学校）、学校安全パトロール隊（小学校）の実施状況

[現状（H26）]全校で実施 → [目標（H31）]現状維持

（具体的な事業）

- ・学校安全対策費（H27当初・教委）
- ・社会に学ぶ「14歳の挑戦」事業[再掲]（H27当初・教委）

##### ④小中学校におけるきめ細かな少人数教育の実施と県立学校の学習環境の整備

○少人数指導と少人数学級のよさを考慮し、学校現場の実態に応じたきめ細かな少人数教育を着実に実施するとともに、個に応じた学習指導や生活指導など、本県独自の効果的な教育を一層推進、また、幼稚園・保育所・小学校の円滑な連携・接続を推進

○「県立学校教育振興計画 基本計画」に基づき、生徒の学習環境の整備等を着実に推進するために必要な施策の実施

##### ◆重要業績評価指標（KPI）：

幼稚園・保育所・小学校合同研修会参加率

[現状（H26）]52.1% → [目標（H31）]増加させる

県立学校における無線LAN整備率

[現状（H26）]1.79% → [目標（H31）]増加させる

（具体的な事業）

- ・少人数教育推進事業（H27当初・教委）
- ・小学校専科教員等配置事業（H27当初・教委）
- ・小学校英語教育モデル事業（H27当初・教委）
- ・県立学校教育振興計画推進費（H27当初・教委）

##### ⑤確かな学力の育成

○基礎的な学力を確実に身につけさせるとともに、それらを活用する力や知的好奇心、学習意欲、探究心を高める教育を実施、国際人として活躍する資質を育成するとともに、科学分野への興味・関心を高め、その能力を伸ばす教育を推進

##### ◆重要業績評価指標（KPI）：

授業が分かると答える生徒の割合

[現状（H26）]62.9% → [目標（H31）]増加させる

(具体的な事業)

- ・とやま型学力向上総合支援事業 (H27 当初・教委)
- ・とやまの高校グローバル人材育成促進事業 (H27 当初・教委)
- ・とやまの高校生留学促進事業 (H27 当初・教委)
- ・スーパーグローバルハイスクール事業 (H27 当初・教委)
- ・スーパーサイエンスハイスクール事業 (H27 当初・教委)
- ・とやま科学オリンピック開催事業 (H27 当初・教委)

(ウ) 未来を拓く人材育成

①社会で生きる実践的な力の育成

○将来の夢や目標を持ち、進路を自ら選択・決定する力、チャレンジする精神、生涯にわたり学び続く得る意欲を育む、また、積極的に社会に貢献し、社会に信頼される若者に成長するよう、子供が職業観や勤労観を身に付けるための教育を推進

◆重要業績評価指標 (KPI) :

県立高校全日制3年生のインターンシップ体験率

[現状 (H26)] 73.9% → [目標 (H31)] 75.0%

(具体的な事業)

- ・とやまの高校生ライフプラン教育充実事業[再掲] (H26.2月補正・教委)
- ・高校生郷土史・日本史学習教材活用事業 (H27 当初・教委)
- ・県立高等学校キャリアプランニング推進事業 (H26.2月補正・教委)
- ・社会に学ぶ「14歳の挑戦」事業[再掲] (H27 当初・教委)
- ・高校生の海外派遣事業 (H27 当初・教委)
- ・とやまの高校生留学促進事業[再掲] (H27 当初・教委)



# 「教育県富山」に移転を求める政府機関の提案

～英語教育及びキャリア教育に係る研修部門の移転～

## (独) 教員研修センター

①つくば本部 茨城県つくば市 30名

②東京事務所 東京都千代田区 8名

全国の学校教育関係職員の資質向上を目的として、学校経営に関する中央研修、喫緊の教育課題に関する研修等を体系的かつ一元的に実施

＜教員研修センターで実施している研修内容＞

- 教職員等中央研修
- 英語教育海外派遣研修
- 学校組織マネジメント指導者研修
- 国語力向上指導者養成研修
- キャリア教育指導者養成研修
- 子どもの体力向上指導者養成研修
- 学校評価指導者養成研修
- カリキュラム・マネジメント指導者養成研修
- 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修 など

### 研修会場

## 高志会館 (公立学校共済組合施設)

- ・富山駅徒歩圏内に立地
- ・宿泊定員58名
- ・約300名収容のホール
- ・分割可能な研修室(最大13室)

### ■学校現場や地域・地元企業と連携した研修の展開(例)

#### ＜英語教育研修＞

小・中学校での外国語活動乗り入れ授業や英語専科教員による効果的な指導授業等の紹介

#### ＜キャリア教育研修＞

地元経済団体やインターンシップ連絡協議会等と協力し、地域、企業、学校と連携した多様な研修プログラム事例の発表

・模擬株式会社の運営による商品開発や販売実習などビジネス活動の実践

・小・中・高校生が校種を越えて協同して行う活動(地域イベント、福祉施設等との交流)の展開など

■地域の実情を踏まえた、より実践的な研修が期待される

## 富山スタンダード

少人数教育の推進、ふるさと教育をはじめとした特色ある取組み、環境整備など富山県ならではの質の高い取組み

全国学力調査の平均正答率が全国上位

英語及びキャリア教育の研修を富山県で実施

### 英語教育

＜富山県での取組み等＞

- ・小学校では、全国に先駆けて英語担当の専科教員を配置し、さらに拡充
- ・高校生の海外留学支援、海外の学校との交流事業の展開
- ・公立中学校、高校の英語指導教員の英検準1級以上等の資格取得率62.4%(全国第2位)

### キャリア教育

＜富山県での取組み等＞

- ・「社会に学ぶ14歳の挑戦」中学2年生全員による5日間の職場体験(H11から(H13から全ての)公立中学校で実施)
- ・インターンシップ(公立高校:卒業までに専門学科の9割以上が体験)や企業経営者等による講演会の開催
- ・進路決定率(高校卒業者の進学者と就職者の合計割合)98.5%(10年連続全国第1位)
- ・高校卒業後の3年以内の早期離職率31.4%(全国平均を約8ポイント下回る)